

授業改善リーフ「第3集」

P・I・Aとは、
Proactive (主体的な)、Interactive (対話的な)、Authentic (本物の)
Learning (学び) [文部科学省パンフレットより 2021.3 発行] の頭文字
をとったもので、「主体的・対話的で深い学び」を英語で表現したもの。

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 外国語 編 ③ 概要

校種・学年	小学校・6 学年	教科等	外国語
単元名	Where is it from?		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none">・身の回りの物とその生産国について話したり聞いたりすることができる。 〈知識及び技能〉・日本とつながりのある国とその魅力を A L T に伝えるために、身の回りの物とその生産国について必要な情報をまとめ、相手を意識して紹介する。 〈思考力、判断力、表現力等〉・日本とつながりのある国とその魅力を A L T に伝えるために、身の回りの物とその生産国について必要な情報をまとめ、相手を意識して紹介しようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉		
本時のねらい	A L T に紹介したい物の生産国の魅力を知り、表現方法を考えて、伝え合うことができる。		
本時の評価規準	<p>【話すこと（発表）】</p> <ul style="list-style-type: none">・ A L T に紹介したい物の生産国の魅力を友達や A L T に理解してもらうために、その生産国について必要な情報をまとめ、伝えている。 【思考・判断・表現】〈行動観察〉〈ワークシート〉・ A L T に紹介したい物の生産国の魅力を友達や A L T に理解してもらうために、その生産国について必要な情報をまとめ、伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】〈行動観察〉〈ワークシート〉		

事例の概要(見どころ)

- ・「日本とつながりのある国とその魅力を A L T に伝えるために、身の回りの物とその生産国について必要な情報をまとめて紹介しよう」という目的・場面・状況を設定し、他教科での既習事項を関連付けることや、外国語の既習表現を想起させることを意識した授業を展開しています。
- ・児童の発話量を確保するために 4 回の言語活動を行い、中間指導では既習内容の想起や良いモデルの提示を通じて表現力を高め、終盤には「Planning Time」を設けて、児童が学び方を選択しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、自分の発表内容を練り上げる時間を設定しています。

発行：令和 8 年 3 月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



授業改善リーフ「第3集」

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 外国語 編 ③ 指導展開

- 目標 ALTに紹介したい物の生産国の魅力を知り、表現方法を考えて、伝え合うことができる。
- 準備 デジタル教材：デ教、世界地図、ワークシート
- 展 開 (5/8)

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1	○挨拶をする。 ○月日、曜日、天気を答える。	・指導者は、児童と目線を合わせ、元気よく挨拶させる。 ・全体に質問する。	
4	○Let's Sing “One Big World”を歌う。 ○Let's Chant “Where is this chicken from?”を言う。	・児童と一緒に歌う。 ・児童と一緒にチャンツをする。 ・指導者は、児童が既習表現を振り返ることができるよう、しっかりと発音させる。	デ教 デジタル教科書
4	○Small Talk ・”Where do you want to go?”を使ったスモールトークを聞き、ペアで会話をする。	・(T-T)JTEとALTの会話を聞かせる。 ・(T-S)児童へと質問を広げる。 ・T-Sの中では、”Where do you want to go?”のやり取りに慣れさせるために、会話活動を広げていく。 ・(S-S)ペアでの会話につなげる。	デ教 授業支援ソフト
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ALT: Where do you want to go? JTE : I want to go to France. ALT: France? That's nice. You can see the Eiffel Tower. JTE : Thank you. How about you? Where do you want to go? ALT: I want to go to America. JTE : America? Cool! You can eat big hamburgers. ALT: Really? Sounds delicious. </div>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ※やり取りの相手 T-T →teacher-teacher T-S →teacher-student S-S →student-student </div>

○Today's Goal

・ 本時のゴールを板書する。

Today's Goal ○○先生(ALT)に紹介したい物の生産国の魅力を知り、表現方法を考えて、伝え合おう。

・ **単元のゴール**が、「日本とつながりのある国について○○先生(ALT)に紹介すること」「紹介する国について、名所や名産品等、その国の魅力が伝わるように表現方法を考えること」を再確認する。その上で、単元のゴールに対して、本時終了時に何ができていればよいのかを、めあてとともに伝える。

本単元のゴールは、ALT が今年奈良旅行で購入したお土産の生産国を見て、「日本とつながっている国についてもっと知りたい」という思いから設定しています。

また、児童が5年生の社会科で「食品の輸出入」について学び、日本と関わりのある国々について学習していることを踏まえ、既習内容を活かしながら意図的に他教科との関連を深める構成としています。

【授業改善の視点】ゴールの明確化と段階的な目標設定

単元のゴールを明確にすることで、指導者自身が単元終末に目指す児童の具体的な姿、すなわち身に付けさせたい力をイメージでき、目標達成に向けた効果的な手立ても見えてきます。また、その単元ゴールに向けて、各授業で段階的に細かいステップを踏みながら進める構成とし、「練習」から徐々に「本当に言いたいこと」へつなげることで、児童が負担を感じずに学習できるよう配慮することが重要です。

1

・ JTE によるデモンストレーションを示し、活動の見通しをもたせる。

Hi, ○○○(ALT).

This is my doll. It's from France. France is in Europe.

You can see the Eiffel Tower. France is a beautiful country.



モデルを提示することで、今日の授業で目標とする姿を児童にイメージさせています。

○Activity

★Let's Challenge①

・ 自分が紹介したい物とその生産国の魅力をペアに伝える。

・ 児童に寄り添い、活動の支援をする。
・ 机間指導をする。



発話量や正確さは求めず、まずは今までの学習を踏まえてどのようなことがどのくらい言えるのかチャレンジさせています。
「言いたいけれど言えない」部分に気付かせながら、中間指導につなげています。

世界地図

【授業改善の視点】課題の自覚と自己調整を促す中間指導

発話量や正確さを問わずに活動させることで、「まずやってみよう」という児童の意欲を喚起しながら、「言いたいのに言えない」ギャップを自覚させます。「言えなかったことを言えるようになりたい」「もっと上手に相手に伝えたい」という児童自身に芽生えた必要感が、中間指導を有効化し、児童が自己調整しながら主体的に学習に取り組む態度の育成につながります。

【中間指導①の視点】

○授業全体を通して、言えなかったことを言えるようにしていくよう支援する。

○前時で作成した世界地図を示しながら、既習表現を想起させる。

○中間指導①では、This is my ○○. ○○ is in ◇◇.の表現を押さえる。

28

★Let's Challenge②

- ・前時の学習内容を踏まえながら、相手を変えてグループで活動する。
- ・グループ内でアドバイスする。

- ・前時までの学習内容を想起させた上で、本時のねらいを再度確認し、活動させる。
- ・うまく言えている部分を認めながら、まだ言えない部分についてグループ内でアドバイスさせる。

【中間指導②の視点】

- うまくアドバイスができているグループを取り上げ、称賛する。
- 中間指導②では、前単元で学習した You can ～. や、形容詞を使って国の魅力を表現している児童を取り上げ、良いモデルとして示す。



★Let's Challenge③

- ・友達が使っていた表現や、アドバイスの内容を踏まえながら、相手を変えて活動する。

【授業改善の視点】言語活動における中間指導
 中間指導は、良いモデルの共有と称賛を通じて、主体的な学習意欲を喚起し、目標と相手意識に立ち戻る機会となります。既習表現の想起や教科書にある表現の効果的な活用を促したり、言語面と内容面の両面から丁寧な支援を行ったりすることで、児童の課題克服と発表内容の質の向上を図り、個別最適な学びと協働的な学びの充実を促します。

- ・Let's Challenge①、②と中間指導①、②を踏まえて、自分が伝えたい内容が伝えられているか、また、伝える情報量が増えているかを意識させる。

★Planning Time

- ・これまでの活動を踏まえて、自分に必要な活動を考えて取り組む。

【授業改善の視点】児童の主体的な学びを支える、学習の自己調整と多様な学びの選択
 「話すこと（発表）」の質を高める上で、児童が自分自身で学習状況を把握し、自らに合った学習の進め方を考えるなど、主体的に学習を調整できるようにすることが大切です。
 児童は、自分自身の課題を捉え、それを克服するために何が必要かを考えます。そして、個人のペースや課題に合わせて、学習者用デジタル教科書の活用、録画による発表の客観的振り返り、あるいは友達との交流など、学び方を自ら選択します。
 この自己調整の過程を通じて、児童は単元ゴールに向かって粘り強く発表内容を練り上げるとともに、個別最適な学びを深め、主体的に学習に取り組む態度を育むことが期待されます。



隣同士で、話したい内容についてアドバイスし合ったり、友達が使っていた良い表現を聞いたりしています。



自分の発表メモを、ALTにチェックしてもらいながらよりよい発表内容や表現についてアドバイスを受けています。



自分の発表に新たに取り入れたい内容について、端末を使用して調べています。



声に出して、読み方や発音を確認、練習しています。読みにくい単語や表現を友達や先生に聞いている姿もあります。



自分の発表を録画・視聴し、客観的に振り返ることを通して気付いた点について、ブラッシュアップしています。



実際に、紹介する物を持ちながら、ALTを相手に発表しています。ALTからのアドバイスを受け、更に練習します。

★Let's Challenge④

- ・これまでの活動の総まとめを行う。

- ・Let's Challenge①からの変容を意識させる。
- ・うまくできている児童を取り上げ、称賛する。



◎<本時の評価規準>「話すこと（発表）」

- ・A L T に紹介したい物の生産国の魅力を友達やA L T に理解してもらうために、その生産国について必要な情報をまとめ、伝えている。

【思考・判断・表現】〈行動観察〉〈ワークシート〉

- ・A L T に紹介したい物の生産国の魅力を友達やA L T に理解してもらうために、その生産国について必要な情報をまとめ、伝えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】〈行動観察〉〈ワークシート〉

○活動のまとめ

- ・My Dictionary (I C T 端末) に、本時で使用した表現を入力する。

- ・本時のねらいに照らしてまとめをする。
- ・国の魅力を紹介するために使った表現や、新しく知った表現等を入力させる。



【授業改善の視点】単語や表現の記録（ポートフォリオ）

ICT 端末に単語や表現を蓄積・保存することは、それらをポートフォリオとして活用することにつながります。児童は過去の学習内容を振り返り、既習の単語や表現を授業で再活用できるようになり、これが自分の課題克服の手立ての一つとなるとともに、できるようになったことを実感して達成感を高める効果も期待されます。

デ教

授業支援ソフト

3

○本時の振り返り

- ・I C T 端末に振り返りを記入する。

- ・振り返りの視点を示し、児童が自身の成長（変容）や次時以降への課題について考えられるようにする。
- ・単元のゴールを再提示し、次時の活動の予告をする。



【授業改善の視点】振り返りの視点の明確化

振り返りの視点を明確にすることは、児童が学習目標や本時のねらいに照らして、何ができたか、その理由は何か、次の時間に向けて何が課題か等を自覚し、自らの学習を調整する上で大切です。

視点は、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、単元及び本時のねらいに即して設定します。外国語の授業においては、相手意識や目的意識、言語面・内容面での適切さを含めることが重要です。

授業者として、児童が学習の見通しを立て、目標達成に向けて努力・工夫できるように支援し、授業の終末には本時のねらいに即した自己評価を記入させるとともに、向上した点を称賛することが望まれます。

デ教

授業支援ソフト

4

○挨拶をする。

- ・全体に挨拶する。